

## 2021年度 第5回理事会議事録

日時 2021年12月10日 19:00～  
場所 WEBミーティング

### 出席者

林(会長/大島HP),加藤木(副会長/前橋保健所),横澤(日本協会代議員/くわのみり),福永(ケツ・クリニック),佐藤(田中HP),小林(つつじ),茂呂,(サンピ)片山(アガティ),永尾(赤城高原HP),鈴木(群馬HP),富澤(西毛HP),天笠(監事/三枚橋HP),狩野(事務局長/田中HP),原島,藤井(事務局/田中HP)

### 《林会長挨拶》

皆さまお疲れ様です。年末のお忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。重ねて日頃より当会の事業にご協力いただきましてありがとうございます。今回は第5回目の理事会で今年最後の理事会となります。来年度の大きなトピックとしては、診療報酬の改定が行われることです。日本協会の動きとして、令和2年度の診療報酬改定の際は、外来の相談支援の加算や産後うつの方への支援についての加算、就労支援の加算が点数化して欲しいという要望が出ました。今年度は訪問看護で、精神保健福祉士が患者さんやご家族に会ったら診療報酬を付けてほしいとか、退院後生活環境相談員の退院支援委員会についても1と2の加算を付けてほしいといった要望が出ています。現実的には日本協会の構成員の加入率、組織率がそれほど多くないので、どれ程に響くかは難しいとは思っていますが、そういった動きに関心をもっただけならと思います。こういった政策提言の動きが、我々会員の活動目的と考えられます。最近全国大会の関係で色々な関係団体に挨拶まわりに行く中で感じる事としては、精神保健福祉士の先輩方が作って下さった技術だったり理念もそうですが、色々な諸団体の方々のご尽力されて自分たちがこういった精神保健福祉士の活動をさせていただいているということを謙虚に受け止めて活動していくという視点も必要だと感じています。それでは本日もよろしくお願い致します。

### 1. 事務局報告

#### ①新規入退会者について

- ・入会希望者2名、退会希望者1名。入会希望者2名今年度会費納入済み。退会希望者1名は全員会費納入済み。宜しければ承認願いたい。  
→異議無く承認。
- ・納付状況、更新状況について  
ブロックごとに状況報告し、共有。  
→未納者や未更新の方に声掛け行っていく。

#### ②定例会

##### ○第3回定例会について（西毛地区）

- ・10月15日、神出病院事件について兵庫県支部の北岡氏に講師をしていただいた。今まさに起きている問題で、現場の生の声を聞き、考えさせられることが多く大変勉強になった。
- ・Facebookにて、今までにないくらい多くのアクセスがあった。当日参加者が多すぎたらどうしようという心配もあり、会員のみ参加できるように調整した。この研修をきっかけに県土会のFacebookのアクセス状況がのびていて、次回の教育研修の興味を持ってきている人が増えている状況。

##### ○第4回定例会について（北部・東部地区）

- ・夜間の方が参加しやすいのではないかと19:00開始とした。コロナ感染者が出てしまった職場に所属するワーカーが実際の対応を20分程度話し、最後に質疑応答する内容であった。ワーカー同士の集まりでしか聞けないこともあり、時間が足りないくらいであった。
- ・地域の福祉事業所所属の立場としては地域の福祉事業所の参加が少なく残念であったが、病院側の話を聞くことが出来てとても参考になった。

- ・今後の第6波に向けてのポイントを確認する場になった。
- ・定例会議事録を確認してもらえたらありがたい。実際の大変な状況を話してもらえたのは、県士会の活動だからかと思われるので、県士会の素晴らしさを実感した。
- ・榛名病院、赤城高原ホスピタル、原病院、つつじメンタルホスピタルでの実際に起こったことを話したが、どこも違うパターンであり、それぞれの大変さが語られた。自分で話すのもそうだが、他の話も聞けて大変参考になった。

(中部地区)

- ・17日(金)15時から、全国精神保健福祉相談委員会の副会長である埼玉県飯能市の山本さんより、にも包括についてどのように考えているか話してもらい、地域でどのような連携が出来るかグループワークで話し合っていきたい。

(西部地区)

- ・10日(金)14時からズームを利用した定例会を行った。テーマが北関東合同研修会の報告会と国家資格のあり方。参加者で意見交換を行うという形で行った。第1部では門屋先生の熱量を皆様と共有し、第2部の国家資格のあり方では皆様がどういう経緯で国家資格をとったか、今後の国家資格の活用について情報共有した。

### ③研修参加等における、他専門職や非会員の参加や差別化等について

- ・chatworkで他専門職団体の方が当会の研修会に参加することについて議論した。これまでの研修会でも参加者数は多いとは言えず、SWDにしても、精神保健福祉士会の参加が一番少ない状況。講師の先生をお願いしても参加者が少ないと、運営側としても心配になってしまう。これまで関係機関や学生にも参加してもらって来たが、改めて考え直す機会となった。
- ・今後の方針として、当会会則には「専門職の質の向上と社会的地位の向上を目指す」「群馬県における精神保健福祉士の発展に寄与する」ことを目的として掲げており、また、「県内外の関連専門団体と連携や協力」「精神保健福祉の向上と啓蒙活動」が事業の方針として示されている。これら会則の主旨等を踏まえると、当会の会員以外が当会主催の研修会等へ参加することは問題ないとする。SWDもその一例である。
- ・一方で、研修に参加できることを入会のメリットとして捉えると、会員にならなくても研修会に参加できるのなら入会するメリットが無くなってしまう。会員と非会員との差別化は必要であると考え、今後の研修会のあり方として、会員のみでクローズド、非会員でも参加可能なオープンな研修と企画運営していくと良いのではないかとアイデアが出た。また、会の発展の為にオープンな企画も出来るだけ多く企画できた方が良いのではないかと三役で話し合われた。
- ・日本協会のブロック会議でも、構成員を増やすにはどうすれば良いのかという話題が必ず出る。その際には「精神保健福祉士が専門職団体に入っている意義を伝えていくべきでないか」との意見の一方で、「そんなの当たり前だ」との意見の人もいる。意識改革が必要でないかと考えられることもあり、来年の総会の事業計画に盛り込んでいきたい。
- ・他の職種の人たちから当会の研修に参加したいと希望されるのは、企画が魅力的だったり現実に則したものであったりしたものが出てくるのだと考えられる。専門職としてブラッシュアップしていくには必要なもの。ただ、会費を払って会員になっているので差別化を考えていくこともとても大事なこと。

(徴収方法について)

- ・Peatixを紹介していただいた。福祉団体などで多く活用されている。
- ・今までは事業の収益化をする際には法人格が基本必要と考えていたが、Peatixは個人で使えるシステムのため、個人法人問わず利用できるのが特徴。
- ・Peatixの利用には手数料がかかる。例えば、1回500円の参加費を徴収する研修会を参加人数30人で開催すると、参加費の4.9%に1件あたり99円を加えた手数料がかかるため、15,000円の収入のうち手数料が3,705円かかる計算。その他、通帳口座への振り込みなどの手数料も数百円単位でかかる。

(今後)

- ・各事業で研修等を企画する際には事務局と協力し、システムを活用しながら開催していく。
- ・教育委員会では研修会を来年の3月に予定しており、内容から差別化を図ったほうが良いかと思われるが、

今年度運用ということで始めたても良いか？

→資料代をもらう研修と同じ考えで、始めていいと思う。事務局としては具体的な手順の打ち合わせが出来れば対応可能。

- Peatixの参加費の支払い方法はどのような形か？  
→支払いについてはクレジットカード、コンビニ、ATMでの支払いが可能。
- 差別化を図るという話で進んでいるかが、一応理事会内で決をとったほうがいいのでは？  
→リアクションボタンで承認。

#### ④次期役員体制について

「現在の役員は全国大会・学術集会が終了するまで変更のない方が良い」との意見で合意が得られていましたが、具体的な方法については決められていなかったかと思われます。

⇒検討の結果、次期役員の選出方法は、通常の理事選出手順に則りブロックごとに選出する。選出する方のできるだけ現理事とするが、ブロックの事情により、理事の交代することも可能とする。

- 現在の役員の選出規定があり、ブロックごとに会員数に応じて役員の選出数を決めるという形になっている。現状の既定のままだと北部の理事が1名となってしまうので、検討していただきたい。  
→選出規程を当該地区の会員25名に 対して1人を選出し、25名を超えその端数を増すごとに1人を増して選出する。但し、各地区選出数は最低2名以上とする。に変更。

#### ⑤後援依頼について

(2021年度ソーシャルワーク教育推進大会)

- 後援依頼を受けました。今年度は関東ブロックが大会を行うということで、12月8日に今後のソーシャルワーク教育についてZoomで研修会を行います。興味のある方はご参加ください。

#### ⑥派遣依頼

- 第二回時計台研修講座「医療・福祉・教育・司法の場で働く人たちのための臨床実践講座～臨床とかかわりのエッセンス～」について林会長が対応。
- 高崎市障害者自立支援判定審査会委員  
横田美和氏:サンピエール病院、奥野裕一氏:相談支援事業所ゆりのき、福永晋太郎氏:ケン・クリニック、中澤亜紀子氏:群馬病院デイケアやまもも
- 令和3年度実習指導者講習会（医療機関:川口氏（サンピエール病院）、地域援助事業者:小林理事）

#### ⑦連携協働

- 日本司法支援センター（法テラス）が行う犯罪被害者支援業務に関するアンケートについて  
→12月末締め切り。司法ソーシャルワーク委員会にお任せしたい。
- ぬまたとね医療介護連携相談室「仕事凶鑑」に関して  
→皆の意見を反映した形となった。
- 第2回医療介護連携フェスティバルin高崎  
→当会から精神保健福祉士とは？という動画と、精神保健福祉士がどんな職場に所属し、どんな活動を行っているかA4の紙一枚で紹介する内容の広告を提出している。今回はオンラインで12月1日～2月28日まで確認できるので、可能であれば見て欲しい。
- ソーシャルワーカー三団体の情報交換会  
→三団体で来年度の方針として
  - 1) 1つ目が災害。今年度から社会福祉士会にも災害対策委員会が発足し、情報共有、研修会など連携していく。中心は社会福祉士会。
  - 2) 2つ目は保証人問題。施設等に実態のアンケートをとって調査していく。アンケート内容を作成したり、こういったところにアンケートを配布するか検討して、考えていく。医療ソーシャルワーカー協会が中心。
  - 3) 3つめは三団体合同での機関紙を年1回作っていく。機関誌を精神保健福祉士会で担ってもらえない

かとの話。広報委員会に投げさせていただきたい。

→会議にて検討していく。全国大会の後に動き始めて、全国大会の様子も載せられたらと思う。

・北関東3県合同研修会

→門屋先生が社会的復権とは何かについて講義してもらった。当日56名が参加し、群馬県からの参加者も多かった。アンケートを事前にとったりしたが、社会的復権は人によってイメージが全然違う。グループワークは出来なかったが、アンケートを通じて皆の意見が挙がってきたので、参加した感があった。また3県で連携していきたい。

・栃木県精神保健福祉士協会の一般社団法人設立総会への祝辞について

→祝電を送り、お礼状もいただいた。

・群馬県つつじ会だよりの原稿依頼

→1月中旬締め切りだったと思うが、主に全国大会について書いていく予定。

## 2、日本精神保健福祉士協会関連

(1) 令和3年度こころの健康づくり対策事業「心のケア相談研修」構成員派遣の依頼

・日本協会の「心のケア相談研修」に参加。大学の先生等が、パワーポイントの資料を基に話す講習会。そのあとに県別に分かれてグループワークを行った。参加者は県の障害政策課の方や看護師等、精神保健福祉士以外の方が多く、事例を基に意見を交換し合った。今後県が開催していくとなれば協力していく形になると思われる。

(2) 第49回衆議院総選挙における「地域共生社会推進に向けての福祉専門職支援議員連盟」役員の「推薦」と政治的姿勢について

・この間の衆議院議員選挙の際に自民党のある特定の候補者を日本協会として推薦するにあたり、各都道府県支部長にも推薦依頼があり、物議をかもした。推薦はこれまでの日本協会の方針に従い党派に関係なく、推薦の依頼のあった委員、立候補者に対しては推薦してきた。今回問題になったのは、都道府県支部長、副支部長に対して協力依頼があったこと。これについて個人の投票活動を拘束するものと誤解が生じたことや、自分がどういう考えを持っているかあまり表明したくない人もいると思うので、難しいところであった。

(3) 全国大会関連（全国大会運営委員会：横澤実行委員長、原島事務局長）

・日本協会本部との間での企画委員会や、群馬県内での運営委員会が定期的に行われている。各部会でも具体的な動きが始まり、プログラムに対するプロジェクトチームが立ち上がり、関係団体へのあいさつ回りも進んでいる状況。この度、開催要綱の案と、予算案を運営委員会で作って日本協会に報告している。  
・大会テーマの副題に関して皆様にご心配をおかけしたり、ご迷惑をおかけしたことにお詫び申し上げたい。  
・chatworkに挙げたが、今回は日本協会の冊子の裏表紙の報告が載らなかった。次回の日本協会の会報誌には全国大会のチラシが背表紙に入ってくるのでぜひ見て欲しい。今後も広報活動を行っていく中で皆様の協力を必要とすることがあるかと思うので、今後ともよろしくお願ひします。

## 3、委員会からの報告事項

【教育研修委員会】

・昨日4回目の会議をオンラン形式で開催した。

・12月19日（日）14時～16時、Zoomミーティングを活用してオンライン形式で開催する予定。テーマは愛着障害に関する研修会ということで、現在虐待で苦しむ子供が0になる社会を目指してという内容。講師には前橋赤十字病院小児科副部長の溝口先生をお願いしている。

・研修申し込みは前回同様QRコードから受け付け、締め切りは12月13日（月）。是非参加してください。

・3回目の研修は来年の3月ごろにアウトリーチシステムについての研修会を予定している。講師は前橋市の出身で、九州福岡にてACTの実践をしている方に依頼をし、概ね内諾はいただいている。

・次回の会議は来年の2月下旬から3月上旬を目安に予定。

【基幹研修Ⅰ】

・11月13日（土）に前橋総合福祉会館で行い、定員15名のところ参加が8名。構成員2名の非構成員6名。

・特に大きな問題はなかった。プリントを印刷しないで参加した人が5名ほどいたが、10名越えなければ運

営側で用意しても良いかなと思った。

- ・次回の基幹研修は全国大会の関係で2023年2月18日（水）を予定。
- ・打ち合わせの一回目が2022年10月21日（金）19時から。2回目の打ち合わせが12月16日（金）を予定している。

#### 【広報委員会】

- ・Zoomサロンを10月6日に茨城、栃木、群馬の会長をお招きして座談会を行った。参加者も多く、なかなか面白かった。次回は2月16日の予定。チラシを作っていくので、出来上がり次第お知らせする。可能であれば参加をお願いします。
- ・ホームページの修正やFacebookの対応行っている。
- ・11月10日（水）に第3回広報委員会を行ってサロンの振り返りと次回の検討、ホームページの確認と、広報誌の確認作業を行った。広報誌について、また次回の分を準備していく。

#### 【政策提言】

- ・特になし

#### 【災害支援委員会】

- ・10月15日（金）に医療ソーシャルワーク委員会、社会福祉士会、精神保健福祉士の三団体で、災害支援に携わる毎年の意見交換会をオンラインで開催した。社会福祉士会が丁度災害支援委員会を発足したということで、それぞれの今までの歩みを報告しあい、グループ分けしてそれぞれが感じていること、課題になっていること意見交換した。
- ・DWATと災害支援委員会のすみわけをどうしていくかが各会で課題であるという話がされた。

#### 【司法ソーシャルワーク委員会】

- ・石川県と一緒に交流会をしようという話があり、12月16日（木）19時からを予定。司法ソーシャルワーク関連の関係でお互いに情報交換したい。
- ・1月11日（火）につなごうねっとがオンラインで予定されている。Zoomを利用するが、たまには対面での開催もしたいと話が出ている。事例も上がるときと、何もなくて閑散としているときがある。検察が入り口支援を始めていることもあって、検察の方から精神保健福祉士会にも声かかって参加している。

#### 【倫理準備委員会】

- ・11月26日（金）どのように行っていくのか、何を目的としていくのか話し合いを行った。
- ・目的としては精神保健福祉士としての倫理について考える場を作り、資質の向上、専門性の向上を図る。
- ・委員会の活動案としては、倫理綱領に基づく実践のための会員の相談場所であること。各精神保健福祉士の業務実施について正しいか否かを判断や判定する場ではない。倫理について考える機会を設け（研修等で）、相談体制のフローを作成することとしたが、皆様からの意見を聞きながら進めてきたい。

Q：準備委員会ということだが、いつ頃からの活動を目指しているのか。

A：2年越し。来年度立ち上げるための研修会みたいなものをして、委員をもう少し集めたい。医療関係者だけでなく施設関係者の委員も集めたい。

Q：時々会に精神保健福祉士に対する苦情があるが、それについて参画等考えているか。

A：考えている。それが体制のフローのところ、入っていくかなと考えている。

## 4、その他の報告事項

- ・メンタルヘルスファーストエイドを活用していこうという話がある。こころの応急処置といった手法。今後人材を養成していこうという流れが予想される。市町村や県単位の保健師が担っていくことになると思われるが、精神保健福祉士が担っていけたら良いのではないかと考えている。今後メンタルヘルスファーストエイドの研修も出てくると思うので、積極的に参加していただければと思う。（加藤木副会長）

## 5、検討事項：ブレイクアウトルーム

- ・ブロックごとに調整し、早めに未納者、未更新者へ声掛けしてもらいたい。
- ・来年の総会をいつもより早めで4月中に行いたい。5～8月は全国大会に力をそそぎたいので協力をよろしくをお願いします。

〈文責：藤井〉